北海道地質調査の思い出
～昭和初期のメモワール～

出席者：（ABC順）
古館　兼治　釧路工業高等学校（北工試在職は昭和４年～15年）
水口　文作　大北試錐工業株式会社（北工試在職は昭和11年～16年）
中村　光夫　石油開発公団（北工試在職は昭和15年～20年）
根本　忠寛　札幌商科大学（北工試在職は昭和12年～23年）
竹内　嘉助　前住友金属鉱山株式会社（北工試在職は昭和10年～14年）
八木　孝夫　札幌通商産業局（北工試在職は昭和13年～18年）

地質調査所側から斎藤支所長ほか各課代表出席
（於　札幌あべ会館）

斎藤支所長

斎藤　本日はおさむいところ　またお忙しいところ　お出ましを願いまして恐縮に存じます．　実はご案内申しあげましたとおり　本年は北海道支所が創立されましてからちょうど20年目に当たりますので　記念事業の１つとして地質ニュース特集号を発刊する計画になっております．この記事の１つに有用鉱産物調査時代を中心とした北海道地質調査の思い出を語る座談会記事をのせたいと思いまして　諸先輩各位におねがい申しあげましたところ御快諾を頂きまして　感謝にたえない次第です．　楽しさの溢れた記事がとれますことを期待しておりますのでどうぞよろしくおねがい申しあげます．

番場技官

番場　本日の会は山屋と私とで司会をつとめることになっております．不なれの点も多かろうと思いますのでよろしくおねがい申します．　皆様のお席に用意しました「北海道鉱床総覧」は皆様のご成果に最近の調査研究成果をつみあげて編集したものでございます．　ご活用頂ければ望外のよろこびです．

さて皆様方にはいろいろの話題がおありでしょうがこの際赤裸々のところをお聞かせ願いたいと思います．具合のわるい点は編集者が十分意を配りますので　その辺はご心配無用にねがいます．

はるばる釧路からおいで下さった古館さん　何でも出張先で舟が沈んで　海女の肌であたためられて蘇生されたと伝えられていますが　あれは本当の話ですか．

古館氏

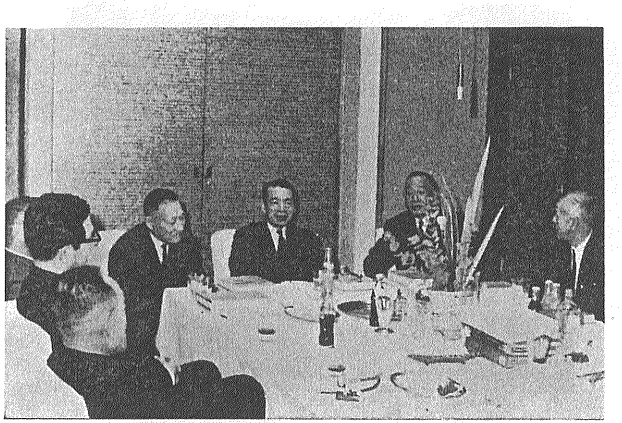
古館　あれはねえ　私の第３回目の調査でしてね　昭和６年の５月中旬　総勢５名で亀田半島の尻岸内に出かけたときのことです．　同行者は高橋　茶木　相馬　伊藤というメンバーでした．　陸路より舟がよかろうということになって舟をチャーターして尻岸内に向かったわけだが出港後たちまち暴風雨となり 三角波が立って沖合の500ｍあたりでテンプク．　何もかも波にさらわれ　散々な目にあいました．　女にだかれて生きかえったのは私ではなくて高橋さんですから　その辺はおまちがえないようたのみます．

私は昭和４年に北海道工業試験場に入り　有用鉱産物調査に従事し　昭和15年の年末に北工試を辞して中支那開発ＫＫにうつり　中国ですごしました．　昭和22年に解任となり　以後釧路の工業高校につとめております．

あの頃の調査はひどいものでした．　北海道は雪があるので外業はせいぜい６ヵ月ですが　その間に５万分の１地質図を４枚作ることがノルマでした．　旅費は私で１日１円10銭でしたが　旅館が１泊２円はかかりましたから　えらい苦労をしました．

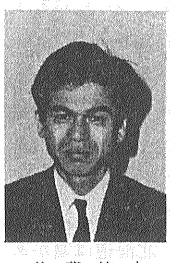
竹内氏

竹内　たしかにひどかった．　人夫は１ヵ月に10日間ということで制限されていたので　よほどひどい調査の場合でないと人夫をつかうことができなかったものです．　エリモ岬～日高地方の調査では旅費が少ないので旅館にとまるどころの話ではありません．　１俵17円の米がかえなくてね．　仕事の方は１シーズンで５万分の１地形図４枚を全域歩かなく


座談会

てはならないので　手のつけようがなかった．　大橋君が庶野地方の卒論をやっていたので　これからはじめることにしたが　とても終りそうもないので　手分けして調査をはじめたら　今度は熊がこわくて歩けないといい出す始末で　全く困りました．

わるいことに　この調査が終って明日帰札という夜に宿舎が火災にあいましてね．　本も布団も服も焼いてしまって　かろうじて調査用具の一部と野帳だけを持って逃げた始末で　サンプルもほとんどやられました．　とくに大切にしておいたニカンベツ地区のサンプルを全部やいてしまいまして　とりまとめのときは地質が続かぬわ　サンプルはないわで全く往生したものです．


佐藤技官

佐藤　調査地域の決定はだれがするのですか　また北海道全域をやるという計画はあったのですか．

古館　要望のつよいところからはじめたように思いますね．　要するに道会議員の声が強くかかったところからはじまったようですね．

佐藤　費用はどこから出たのですか．

古館　国費ですよ．

番場　それにしても旅費が安かったですね．　生活のなりたたない旅費に不満はなかったのですか．　旅費をピンハネされていたのとはちがいますか．

山屋　地質調査所ではその頃1日6～7円の旅費でしたよ．　ひどい格差でしたね．　文句も出なかったんですか．

千島国後島の調査（昭和14年）
先頭は根本忠寛　2番手古館兼治　3番手鈴木醇の各氏

札幌市中心街大通公園

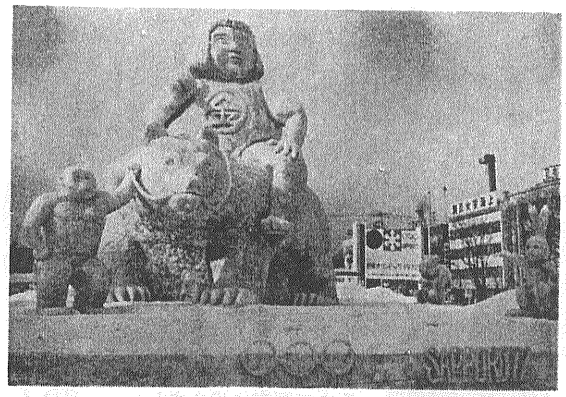
古館　そういうものだとあきらめていたのでしょうね．工業試験場にもいろいろの部がありましたが　地質調査が一ばん冷飯を食わされていたようです．　何でも定員枠まで支庁や本庁にすいとられていたようですよ．

竹内　幌泉調査のときに私はニッケル鉱床を発見しました．　これが今の幌満鉱山なのだが　これは私の功績ではなくて天候のせいだと今も思っていますよ．　幌満川を尾根まで行ったら雨になって　川水が増して帰れなくなったわけです．　致し方なく笹小屋をつくって徹夜したんですが　翌日になったら腹がすいて何度も何度も岩に腰かけて休みました．　地質屋のくせで岩の上に腰をおろすと無心にハンマーでその辺の岩を叩くでしょう．あれですよ．　やっているうちにピロがあるのに気がついて　小さいサンプルをポケットに入れて戻ったんです．分析したら何とニッケルが出ましてね．

根本氏

根本　日露戦争のとき旅順港口の閉塞で船を沈めるためにつかったのはそのピロだとか言われたことがあるが　あのような山奥の不便なところから運ぶわけはないし　おそらく海岸近くのペリドタイトをつかったものでしょうね．　あそこなら船には便利だし　石は重いし．

古館　私はミオジプシナをはじめて北海道から発見しました．　また最近日高にヒスイが発見されたといいますが　私はすでに昭和13年に発見しているんですよ．優白岩の中に目のさめるような緑の石がありましてね．たしか新日東クロム鉱山の沢ですよ．　私はもともと中国の生れですからヒスイには関心があったんです．



札　幌　雪　ま　つ　り　（昭和43年２月）

佐藤　ミオジプシナは今でも発見しにくい化石の１つになっています．　大したもんですね．

番場　そうすると日高ヒスイが最近発見されたというのは間違いですね．　これは不覚でした．　先輩に申しわけないことをしました．

古館　まだあと２ヵ所にありますよ．

番場　その場所をぜひ教えて下さい．

古館　いやそれだけはかんべんして下さい．

番場　大へん興味あるお話でした．　それではこの辺で少し話題をかえて　北海道の50万分の１地質図を編さんされた当時のご苦労を伺いたいと思います．　この仕事の中心になられた根本先生にはとくにご苦労が多かったと聞いておりますが．

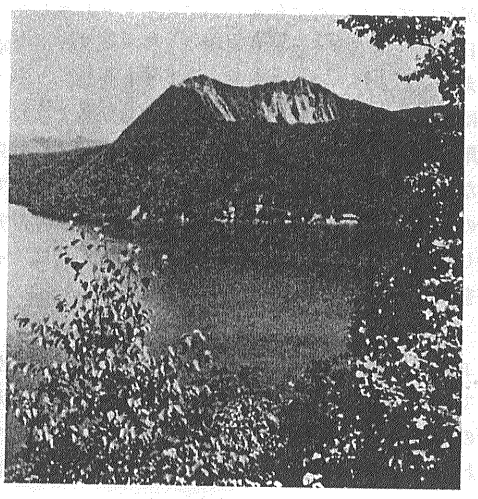
根本　昭和12年に北海道工業試験場の第５部（資源調査部）が拡充されて　技手２名のところに私が入りました．　またこのとき鈴木先生が嘱託になられ　以前から嘱託だった福富先生がおられて　さっきから話のでていた昭和４年以後の調査実績を地質図としてまとめないかという案が出ました．　大井上氏のあと北海道地質図は久しく出ていなかったので時宜をえたものと考え　北大の地質教室の応援をえて昭和13年に企画し　竹内君　三本杉君　深谷君らといっしょにコンパイルし　昭和14年に印刷に回し　昭和15年に完成しました．　14年に軍機保護法という法律ができていて　網走―釧路以東は地形を入れてはいけないことになっていたんです．　それはわかっていたんですが　せっかくの地質図なので地形を削らずに基図（陸地測量部刊行）そのままで印刷したのです．　出版になってから間もなく陸軍から私が呼び出されて　東京三宅坂の陸軍省まで出頭し　散々油をしぼられました．　面接したのは防衛局のパリパリの陸軍少佐で「敵の上陸作戦を助ける貴重な資料になり　軍機保護法に抵触し　本来ならば刑罰ものである」とお叱りをうけたものです．　出来あがった地質図は　札幌市の富貴堂と丸善で一般に売り出したんですが　いくらも売らぬうちにこの始末で　発売禁止となってしまいました．1000部刷って定価を８円にし　その利益を地質調査会の財源にする腹だったのが　このような散々な目にあって計画倒れに終りました．

山屋　何部うれたんですか．

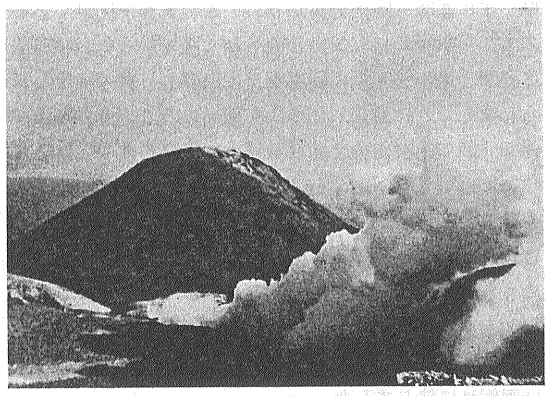
根本　300部は富貴堂と丸善から出たんです．　現金で買った者はリストが残っていないので　そのままになったが　ツケで買った人はリストがあったので　それは全部回収されてしまいました．　大学　調査研究機関など関係方面にだけ200部配布することがやっと認められたので　残部はたしか750部位あったと思う．　その750部は札幌の警察本部で管理されていたが　終戦後まもなく火災にあって焼失してしまったわけです．　ほんとうに恵まれない地質図でした．

番場　大へんよくできた地質図で　もともと好評だったんでしょうが　部数が少なくなってしまって一層その価値が高まりましたね．　今は得がたい宝物といった感じです．

水口　校正ずりは僕のところに１部あります．　貴重品だと思って大事にしてますよ．



摩　周　湖



阿　寒　富　士

番場　地質図といえば　当時の10万分１の図幅にはずい分お世話になりました．　私は永らく日高のクロム鉱床の調査をしましたが　登川図幅というのは実によくできていますね．

水　口　氏

水口　あれは三本杉さんと私とで歩いたんです．　鈴木先生が時々指導に見えました．　先生はカリントの袋を１人１人に配ってくれて　それをかじりながら歩いたものです．急な坂道では三本杉さんが鈴木先生を後から助けて押しあげたものです．私は先生の水筒を持って　よい水があれば水をいつも入れかえておきました．

熊とりの名人といわれるアイヌを連れて歩きましたがグラニットの白い玉石と渓流の美しさと　そこでとれるヤマメの味は今でもはっきりと思い出します．

造材小屋で久しぶりに風呂に入ったらトビ上る程足が痛いんですね．　よく見たら足の裏が赤くなっている．皮がついていないのに気がついてビックリしました．１日10里～15里歩くと10日目位で　マメやタコの段階をこえるんですね．　いやビックリしましたね．　歩くときはワラジをつけているんで気がつかないんですね．長尾先生もときどききてくれましたね．　先生がお見えになると　その夜はお銚子が２本づつつくのが習慣でたのしかったですね．　元浦河の調査では渡渉で苦労しました．　１人では急流にまけるので３人が組になって肩をくみ　ヘソまでの水をこいだものです．

竹内　相馬君と静内の奥に入ってね　ろくなものがなくて空しく帰ったことがありましたがね．　そのとき宿舎の周りで捨てた空罐を食いあらす熊がウロウロしているわけです．　熊の動きと空罐のガラガラいう音に胆を冷やしたものです．

斎藤　皆さん熊に会った記録は何回位ですか．

一同　あんまり会わないものです．　多い人で５～６回というところでしょう．

番場　ところで八木さん　中村さん　まだご発言がないようですが　忘れられぬ思い出がおありでしょう．

八　木　氏

八木　私　試験場に入ったのが昭和13年で　18年に鉱山統制会にうつるまで調査に歩きました．　私はイトムカ鉱山調査が忘れられません．これはイトムカの最初の調査で　矢島さん　陸川さん　福富先生がいっしょでした．　当時官行斫伐の事務所に泊りましてね．　スコップで椀かけをすると銀の玉のような生水銀がたちまちサイダーびん一杯になるのにはおどろきました．　野村鉱業がイトムカを開発するようになって　矢島さんをはじめ多勢の人が試験場から移りました．　私にも声がかかりましたが　あの山の中ではと尻込みしたものです．

私は試験場のうらではじめてボーリングのハンドルを握りました．　これは試験場のボーリングの第１号でもあるわけです．　深度150ｍでした．　利根の機械を買ってテストを兼ねたものですが　深さ150ｍといえば当時としてはいい深度でした．　昭和15年の話ですよ．

中村　私は　今石油開発公団にいますが　昭和15年に北工試に入って　化学分析をやらされたり　調査の手伝いを５年間やらされました．　私は若かったし何の不満もなくよろこんで働きました．　ひとりで歩いたわけではなく　皆さんの人夫代りをやりました．　大きい荷物を背負って　ハンマーで石を叩き　サンプルをかついだものです．　１日に10里から14里は歩きましたね．　私も足の皮がなくなった口です．　のん気だったせいか苦労したという印象がないんです．　先輩にはかわいがってもらいました．

斎藤　僕も１日10里は歩きましたね．　10里でしたら毎日歩いても平気でした．　12～15里となると５日に１日位は休む必要がありましたね．

山屋　工業試験場には酒豪が揃っていたと聞いていますが　根本先生も第１人者だったそうですね．

根 本　僕は大したことはないんだ．　1斗の酒を4人で1晩でやっつけたのは鈴木先生と2名の千島勤務の陸軍将校の筈ですよ．　千島調査のとき　試験場から2斗樽を用意してもらって　調査用具といっしょに琴似駅から発送したのですが　酒樽だけとうとう未着でした．あとで琴似駅に抗議したところが　樽がこわれたということで　お金で弁しょうしてもらいましたが　ほんとうに樽がこわれたものかどうか　今もって疑問に思っています．

番 場　千島調査の結果はいつ出版になりますか．

根 本　小出しにはちょいちょいかいています．　最近では鈴木先生の還暦論文集にかきましたが．

番 場　根本先生には最近本格的に千島の仕事に打込んでおられるように聞いていますが　貴重な資料ですから完成される日の1日も早いことを希っています．

古 館　千島もそうですが　あの頃は馬の調査が多かったそうですね．　馬はどんなところへも行ってくれるので　場合によっては車よりいいもんです．　しかしね　利口な馬にかかると大へんで　私など10里もきてから馬に逃げられましてね　ホトホト参りました．　私を落して1目散で裸馬が先に帰ってしまうのですよ．

山 屋　面白い動物の印象といったものはありませんか．

竹 内　野豚には参ったね．　家畜を野放しにしておくと野性化してイノシシのようになるんですね．　調査中に襲われるかと思ってビクビクしたことがよくありました．

斎 藤　下川を歩いたときに山奥でオギャアオギャアと赤ん坊が泣いている．　すて子かと思った位です．　これが何と狐でした．　狐がコンコンと鳴くのはうそですね．

根 本　狐がコンコンとなくのは発情期の雄なんです．

古 館　私のは動物ではなく　鉱物ですが　日高山脈のペグマタイトの中に美しい緑色のベリルを発見したことがあるんです．

番 場　何ですって　エメラルドが日高にあるとは思ってもみませんでした．　それ本当の話ですか．　古館さんにかかると日高は宝の山ですね．

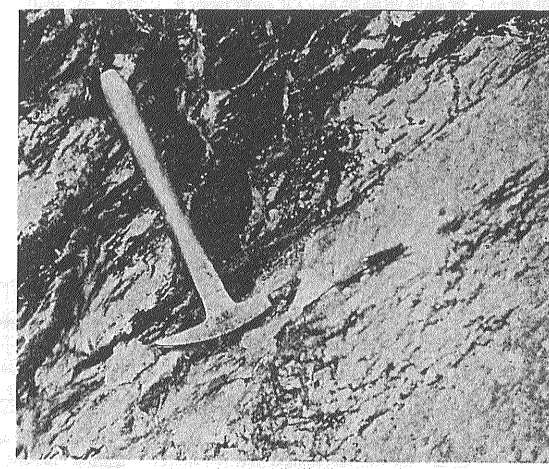
古 館　大雪山近くでパーライトもみつけましたよ．

斎 藤　それならわかります．

番 場　いろいろ発見があったようですが　先刻の根本先生のお話では　三本杉さんと水口さんが日高で鳥の巣統の層孔虫（*Stromatopora*）の化石を発見されたそうですが　登川図幅の説明書には発見者が別の方になっています．　どうしたんですか．

根 本　説明書にのっているのは鑑定者の名であって　発見者は三本杉　水口両君なんです．　そのことは地質学雑誌にもチャンと記載されています．．

番 場　さてお話を伺っているうちに　早くも5時近くになってしまいました．　会場をあけ渡さなくてはなりませんので　ここらで閉会にさせて頂きますが　北海道の地質調査に従事された諸先輩が　きわめて困難な条件の中で　立派なお仕事を残されたことがよくわかり　感銘いたしました．　私どもの現状は　30年前にくらべればまことに恵まれたものといえましょう．　野外調査には颯爽とジープを駆使し　研究室には電子顕微鏡　X線回折装置をはじめ　数々の近代機器を備え　多数の地質家がたがいに討論を交わす機会をもっております．　この近代化を正しくふまえて　後継者としての責務を果したいとの決意を新らたにした次第です．　先輩各位にはどうぞご自愛せられ　末長く私ども後進を激励して下さいますようこの機会におねがいして　この記念すべき会を閉じたいと存じます．　大へんありがとうございました．



ビリジン石英片岩の産状
表紙に紹介した本岩石は　日高変成帯の西部の斑糲角閃岩中に1枚の隔壁状をなして産出する．　ハンマーの頭部にある岩石がビリジン石英片岩でその上下盤とも　青緑色の斑糲角閃岩である．